

本資料は 2015 年 6 月 6 日付で技術諮問委員会より提出された報告書に対して、NRRC 所長より返信したレターを参考までに原子力リスク研究センターにて仮訳したものです。正式なレターは英文版の原文のみとなりますのでご留意ください。

原子力リスク研究センター  
一般財団法人 電力中央研究所  
〒100-8126 東京都千代田区大手町 1-6-1

ジョージ・アポストラキス  
原子力リスク研究センター所長

2015 年 6 月 29 日

ジョン・W・ステットカー委員長  
技術諮問委員会

件名: 火災研究活動に係る 2015 年 6 月 6 日付の TAC 報告書について

ステットカー委員長殿:

原子力リスク研究センター (NRRC) を代表して、私は技術諮問委員会より提出された標記報告書にて提示された提言に対して以下の通り回答する。

TAC による提言と NRRC スタッフの回答

#### 提言

日本の原子力発電所における火災リスクの現実的評価を策定および適用するために必要な情報を改善していくために、NRRC は、火災研究・試験プログラムにおいて、以下の領域により重点を置いて取り組むべきである。

- (a) 電気キャビネットの物理的特性に基づいた火災発生頻度、火災成長速度、放熱速度の現実的な評価の実施

回答: 我々は TAC による提言に同意する。NRRC スタッフは NUREG-2178 についてレビューしていく予定であり、火災リスクの現実的な評価のための技術的情報を拡充する活動に重点的に取り組んでいく予定である。

- (b) 仮置きされた可燃性物質の物理的特性に基づいた、火災発生頻度、火災成長速度、放熱速度の現実的な評価の実施

回答：NRRC スタッフは TAC による提言に同意する。日本の電力会社は仮置きされた可燃性物質からの火災リスクを管理することの重要性を認識しており、仮置きされた可燃性物質の管理を日常的な習慣として実施してきた。我々は、本提言を満たすために研究プログラムをより充実させていく予定である。

- (c) 原子力発電所の典型的な電気キャビネットに対して設置される初期火災検知システムの応答時間と有効性を測定する試験

回答：我々は TAC による提言に同意する。NRRC スタッフは、いくつかの日本の電力会社が初期火災検知システムの有効性を評価した後、実際にこの検知システムを導入していることを認識している。NRRC の火災 PRA ガイドラインの開発の一環として、NRRC は TAC の提言を検討し、必要に応じて、試験計画を策定する予定である。

我々は、電力会社の短期的・長期的な火災リスクマネジメント活動を支援していくため、電力会社からの意見を求め、TAC の提言と電力会社の要求を踏まえて、研究活動の優先順位を決めていく予定である。

TAC がこの重要な課題に対して時間と労力を割いて頂いたことに対して感謝を申し上げるとともに、今後も TAC とのやりとりを継続していくことを期待している。

敬具

ジョージ・アポストラキス（本人署名）